

大いなる憐みの心

普泉寺住職 小山 貴大

仏祖憐（あわれ）みの余り広大の慈門（じもん）を開き置けり、是れ一切衆生（しゅじょう）を証入（しょうにゅう）せしめんが為なり、人天（にんてん）誰（たれ）か入らざらん、彼（か）の三時の悪業報（ごつぼう）必ず感ずべしと雖（いえど）も、懺悔（さんげ）するが如きは重きを転じて軽受せしむ、又滅罪清浄（めつざいしょうじょう）ならしむるなり。

現代語訳

仏と両祖師方は、大いなる憐みの心を持ち、誰でもいつでも入れる大きな救いの門を開いておいてくださいました。これは、すべての者にこの世の真理に目覚めさせみずから体験し悟らしめんとするためであります。これを聞いて、入ろうとしない者がいるのでしょうか。さて、われわれが良からぬ行為をするならば、その影響はあとに残ってきますが、もし、仏祖の教えにしたがって懺悔するならば、悪影響も好転して軽く受けることが出来ますし、さらにいえば、心は清々しい爽やかな気持ちに戻らせてもらえるのであります。